

F24 ビュクス (フランス)

ビュクスの岩場はあまり説明する必要もないだろう。フランスだけではなく世界的にも知られる有名なクライミングエリアである。この特徴はなんと言ってもドリルであけたようなポケットホールを使ったクライミングである(実際多くのチッピングが行われている)。その為指への負担は非常に大きい。特に指を伸ばして引き付けるムーブが多いので指の腱や前腕部のスジの痛みなどに注意が必要である。しかし初心者からでも楽しめるルートは山のようにあり十分楽しむ事が出来るだろう。ここも昔ほど多くのクライマーの姿を見る事はなくなったが、まだまだ世界中からクライマーがやって来る。一昔前は大人気ルートだったものも順番待ちもな思っ分トライする事が出来るだろう。この岩場の特徴としては評価が2つに分かれるようである。

どうも日本人は指を伸ばしてポケットで引き付けるタイプが苦手なクライマーが多いようである。さらに傾斜が垂直、薄薄りなため前傾が得意な日本人には、他の岩場より登れるグレードが数ランク落ちる人も少なくない。日本人のかなり多くのクライマーが期待してやって来ては見たものの、指を痛めてしまったり、タイプに合わなかったりして他の岩場に転戦した者も多い。個人的には私なども苦手な岩場である。

岩質

石灰岩

ルート

高さは短い10m以内のものから数ピッチのルートもある(要50mロープ)。また取り付きが数ピッチ上のテラスからというルートも多い(テラスの上での移動は十分注意されない。何人が転落死している)。ルートの多くはポケットを駆使して登るルートが多いが、最後はかなり悪いスラブがあるのも特徴である。ボルトは易し。リレートはしっかりと打ってあるが、グレードが上がりにしたが、ランナウトするものも多い。ルートの取り付きには赤ペンキでルート名が書いてある。岩場のほとんどは南面で晴れるとかなり暑い。雨が降ると登れない。雨の後は乾きも遅くかなり湿気があり、ポケットの中に水がたまっていることもある。尚、FACE OUEST エリアは鳥獣保護区の為立ち入り禁止。やっている所を見つかる地元のおやじにこっぴど怒られる。

宿泊

ビュクスだけならアプトの街をベースにするのがよい。アプトにはキャンプ場があるが街中で落ち着かない。その為テントではなくキャンプ場内のモーターホールを借りているクライマーも多かった。アプトの街のインフォメーションに行きアパートを紹介してもらおうのも良いだろう。一番近いキャンプ場はボニューの村にある。

シーズン

春と秋。晴れると暑くて登れないルートもある。日が長いシーズンは夕方からが良いだろう。また晩秋は風も吹き、晴れていてもかなり寒く指先がかじかむ。

ショッピング

ビュクスの村には店は無い。アプトですべての物が手に入る。マウンテンショップは無い。トボは1994年に最新のものが発行されておりアプトの本屋かタバコ屋で手に入る。

アプローチ

ここではアプトからのアプローチを紹介する。APT からデュピュロン山脈の反対側の町、CADENET 方向を目指す(D943号)。丁度デュピュロン山脈の頂上をすぎた辺りにBUOUXの看板が出て来る。しばらく細い道を走ると岩場が見えて来る。

レスト

この周辺はプロバンスの小説の舞台にもなっている場所である。BUOUX のすぐ側の村、BONNIEUX などは典型的なプロバンスの村である。ここはぶどう畑を中心とした農作地帯が見渡せる。そして夏はラベンダーが咲き乱れていて大変美しい。またここから西へ15 kmほど行った所に世界的にも湧き水として有名な VAUCLUSE の泉がある。

その他

アプトからN100号を西へ5 kmほど行った PONT JULIEN にはアプトの岩場と呼ばれているこじんまりとした岩場がある。ピュークスと同じ岩質だが、短くてボルダー的。しかしグレードはそれほど難しいのはよい。雨の後は湯きが比較的良い。

これは別にピュークスからCADENET 方向へしばらく走ると、溪谷をぬける手前にLOURMARIN の岩場がある。ここは非常に美しいやや被りの長い前傾壁。グレードもさまざまでかなりの高難度のルートもあったのだが、鳥獣保護の為登攀禁止となってしまった。